



平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年2月3日

上場取引所 東

上場会社名 攝津製油株式会社

コード番号 2611 URL <http://www.settsu-seivu.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 二ノ宮 義治

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 総務部長

(氏名) 山本 信秀

TEL 072-280-2650

四半期報告書提出予定日 平成27年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	7,017	△3.4	205	△37.7	215	△36.6	129	△36.9
26年3月期第3四半期	7,264	0.8	329	9.0	339	8.5	205	15.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	10.65	—
26年3月期第3四半期	16.87	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	%
27年3月期第3四半期	6,935		3,981		57.4		326.26	
26年3月期	6,402		3,883		60.6		318.23	

(参考)自己資本 27年3月期第3四半期 3,981百万円 26年3月期 3,883百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	4.00	4.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	4.00	4.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,010	4.1	400	△1.7	410	△2.2	260	△0.8	21.31

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	12,222,080 株	26年3月期	12,222,080 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	19,343 株	26年3月期	19,303 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	12,202,753 株	26年3月期3Q	12,203,674 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P.3「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動減の影響が和らぎつつあるものの、一段と進行した円安による食料品価格の値上げや、度重なる天候不順等により、個人消費は低調に推移しております。また、為替相場や原油相場の急激な変動、新興国経済の成長鈍化への警戒感、欧州・中東などでの地政学リスクの高まり等の海外情勢もあり、消費税再引き上げ時期が延期されたとはいうものの、国内の景気動向は不透明な状況で推移しております。

こうした経済環境のなかで当社は、化成品事業における安定的な事業収益を生み出す事業基盤強化への取組み、油脂事業における適正な利益を確保できる体制の構築に注力しています。さらに、工場におけるコスト競争力・購買力・生産技術力及び品質保証体制の強化などの経営基盤の安定・強化に引き続き取り組んでまいりました。

当第3四半期累計期間における業績は、売上高は、化成品事業は増加したものの、油脂事業・その他が減少し、70億17百万円(前年同期比3.4%減)となりました。

また、利益面では、油脂事業・その他の売上高の減少等が影響し、営業利益は2億5百万円(前年同期比37.7%減)となり、経常利益は2億15百万円(前年同期比36.6%減)、四半期純利益は1億29百万円(前年同期比36.9%減)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(油脂事業)

当社の油脂事業は、精製受託、業務用斗缶販売、小瓶充填・小ロット精製から構成されています。

精製受託は、主力のコーン油、なたね油共に受託量が減少し、売上高は前年同期を下回りました。

業務用斗缶販売は、市場価格が低水準で推移するなか、可能な限り製品価格の是正に努めつつ、新商品も上市し、販売数量の確保にも注力したものの、売上高は前年同期を下回りました。

小瓶充填・小ロット精製は、自社プレミアムオイルは前年同期並みとなり、OEM品は、新規受託の獲得があったものの、全体の受託量は減少し、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、油脂事業の売上高は31億95百万円で前年同期比9.9%減となりました。セグメント利益は1億61百万円で前年同期比25.3%減となりました。

(化成品事業)

当社の化成品事業は、自社業務品、OEM及び業務提携先OEMから構成されています。

自社業務品は、外食店、食品加工工場向けに中性洗剤、厨房機器用洗剤や除菌洗剤の拡販を行ってまいりました。当第3四半期累計期間においては、外食産業に貢献できる除菌剤・厨房機器用洗剤が引き続き順調に推移しましたが、中性洗剤の販売が減少したことにより、売上高は前年同期を下回りました。

OEMは、一部の会員販売・通信販売向け製品の受託及び新規受託先が増加したことにより、売上高は前年同期を上回りました。

業務提携先OEMは、ケミカル関連商品、業務用関連商品及び家庭用自動食器洗浄機用洗剤の受託は好調に推移し、売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、化成品事業の売上高は35億94百万円で前年同期比4.8%増となりました。セグメント利益は4億89百万円で前年同期比4.7%減となりました。

(その他)

その他については、物流業務における流通加工業務が減少し、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、その他の売上高は2億27百万円で前年同期比22.0%減となりました。セグメント利益は74百万円で前年同期比34.5%減となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末の総資産合計は、69億35百万円となり、前事業年度末に比べ5億32百万円増加しました。

主な内容は、流動資産につきましては、売掛金及び短期貸付金等が増加したことなどにより4億67百万円増加し、固定資産につきましては、建物、機械装置及び投資有価証券の増加などにより65百万円増加したことによるものであります。

負債合計につきましては、29億54百万円となり、前事業年度末に比べ未払法人税等が減少したものの、買掛金及び未払金等の増加などにより4億34百万円の増加となりました。

純資産合計につきましては、39億81百万円となり、前事業年度末に比べ利益剰余金等が増加し、97百万円の増加となりました。

以上の結果、自己資本比率は、57.4%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、「平成26年3月期 決算短信(非連結)」(平成26年5月7日発表)において公表いたしました当初の計画を修正しておりません。厳しい経営環境ではありますが、引き続き当初計画を目標にした取組みを推進してまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32	90
受取手形及び売掛金	2,426	2,653
有価証券	0	0
商品及び製品	237	233
原材料及び貯蔵品	138	133
短期貸付金	244	467
その他	114	81
流動資産合計	3,193	3,661
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	699	733
機械及び装置(純額)	168	193
土地	1,919	1,919
その他(純額)	140	139
有形固定資産合計	2,928	2,985
無形固定資産	16	6
投資その他の資産	264	282
固定資産合計	3,209	3,274
資産合計	6,402	6,935
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,293	1,613
未払金	579	771
未払法人税等	91	-
引当金	62	33
その他	58	102
流動負債合計	2,086	2,520
固定負債		
退職給付引当金	368	371
役員退職慰労引当金	25	33
その他	39	28
固定負債合計	432	433
負債合計	2,519	2,954
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,299	1,299
資本剰余金	1,165	1,165
利益剰余金	1,385	1,466
自己株式	△6	△6
株主資本合計	3,842	3,924
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	40	57
評価・換算差額等合計	40	57
純資産合計	3,883	3,981
負債純資産合計	6,402	6,935

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	7,264	7,017
売上原価	6,203	6,081
売上総利益	1,061	935
販売費及び一般管理費	731	730
営業利益	329	205
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	4	3
仕入割引	2	2
受取地代家賃	1	1
その他	1	1
営業外収益合計	10	10
営業外費用		
支払利息	0	0
売上割引	0	0
その他	0	0
営業外費用合計	0	0
経常利益	339	215
特別損失		
固定資産除却損	0	1
特別損失合計	0	1
税引前四半期純利益	338	213
法人税、住民税及び事業税	115	68
法人税等調整額	17	15
法人税等合計	132	83
四半期純利益	205	129

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	油脂事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,544	3,428	6,972	291	7,264
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,544	3,428	6,972	291	7,264
セグメント利益	216	514	730	114	844

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれないセグメントであり、物流業務を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	730
「その他」の区分の利益	114
全社費用	△515
四半期損益計算書の営業利益	329

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	油脂事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,195	3,594	6,789	227	7,017
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,195	3,594	6,789	227	7,017
セグメント利益	161	489	651	74	726

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれないセグメントであり、物流業務を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	651
「その他」の区分の利益	74
全社費用	△521
四半期損益計算書の営業利益	205

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。